



中央アジア地域ニュース

カザフスタン：議会下院選挙の結果

(8月20日付ロシア「独立新聞」)

1. 8月18日に実施された議会下院選挙の結果は、同国の下院が二大政党制になるとの多くの識者の見方を裏切り、ナザルバエフ大統領率いる与党「ヌル・オタン」が有権者の圧倒的多数の支持を得た（注：他紙報道によると同党得票率は88.05%）。議席を獲得した野党は一つも現れず、カザフスタンは一党が議회를制する国となった。野党「アク・ジョル」党のバイメノフ党首は、カザフスタンの政治が危機的状況にあると述べ、同党がこの選挙結果を承認しない旨を表明している。
2. 今回の議会選挙では、選挙区を比例区だけに限る新制度が採用され、議席獲得に7%を超える得票率が必要であった。2009年のOSCE（全欧安保協力機構）議長国を目指すカザフスタンにとり、欧州の基準は重要であり、多くの識者は、現政権一党のみが制する議会の出現を望んでおらず、今回選出される議会は二大政党から形成されるだろうと予測していた。世論調査でも、野党「アク・ジョル」党が7.2%の得票率で7%の足切りを突破すると予想されていた。
3. しかし、結局「アク・ジョル」党の得票率は3.27%に留まり、社会民主党は4.62%、その他の共産党、愛国者党などの得票率はいずれも2%を下回った。ある専門家は、カザフスタンでは政党制度の発展が遅れている上に、政権側の資金力は圧倒的であり、歴史的にもナザルバエフ大統領がカザフスタンの国民意識の源泉であるので、政権批判が声にならないとの事情があると語った。この指摘通り、米国はカザフスタンをカスピ海地域でのエネルギー開発のパートナーにしようとしており、ナザルバエフ大統領を批判することを避けている。実際、同大統領は、ロシア、中国、西側諸国の間を巧く立ち回っており、国内的に自分がやりたい放題の立場にいることを十分理解している。

参考：

今回の選挙は、今年5月の憲法改正によって定数がそれまでの77議席から107議席に拡大されたのを受け、2009年の任期満了を待たずに繰上げ実施されたもの。107議席のうち98議席が比例代表制による直接選挙で選ばれ、残り9議席はナザルバエフ大統領を議長とする「カザフスタン諸民族会議」が指名する。同会議は国内に存在する多数の少数民族の代表から成る組織である。選挙前の議席は、与党が75議席、野党が2議席であったが、今回の選挙により与党が98議席を独占した。